

# きらめく 津山人

絵本作家

## 関屋 敏隆 さん (津山市出身)

京都市立美術大学 (現在の京都市立芸術大学) を1968年に卒業。絵本『オホーツクの海に生きる』(文・戸川文 ポプラ社) で、1999年度ブラティスラヴァ世界絵本原画展ビエンナーレ・金のりんご賞とベオグラード第6回国際イラストレーション・ビエンナーレ・グランプリを受賞。



### 絵本作家になったきっかけは？

大学生の頃、葛飾北斎や山下清の画業に憧れて、よくスケッチ旅行をしました。その時、描きためたスケッチをまとめて『旅の絵本』を作りました。その経験を生かし、多くの人に絵本を通じて、旅の素晴らしさを知ってもらうため、絵本作家になりました。

### 『りゅうじんさまは歯がいたい』の制作秘話を教えてください

平成18年に津山市立図書館で原画展と講演会を開催した際、津山にちなんだ絵本を作ってほしいと言われ、制作に取り掛かりました。津山には昔から、吉井川にごんご(かっぱ)が棲んでいたという言い伝えがあるので、それを題材に、津山の原風景を思い浮かべながら、いつまでも川がきれいであってほしいという願いを込めました。

かっぱは相撲が好きという言い伝えもあるので、それをテーマに10年もの歳月をかけていくつも構想を練り、ようやく自信作が完成しました。きれいで躍動感のある絵本に仕上げるため、多色の画用紙を使い、切り絵の技法を用いました。ぜひ、皆さん読んでください。

### 今後の意気込みは

現在、絵本の制作などの縁で北海道稚内市の歴史に関するまちづくりに携わっています。稚内市には、コーヒーにちなんだ歴史があり、津山市には珈琲という当て字を生み出した洋学者がいたことから、共通のテーマであるコーヒーを縁に、津山市と稚内市が近い将来、文化、観光、物産の分野で交流ができるよう橋渡しをしたいと考えています。



絵本『りゅうじんさまは歯がいたい』原画展 (津山市立図書館にて開催)



関屋さんがスケッチした津山城 (鶴山公園)

### 今月の表紙

ブオーン!  
チェーンソーの稼働音が  
森に鳴り響く間伐作業  
9月1日 (阿波地内)



10月の森づくり月間にあわせて特集を組んだ「未来につながる緑の財産」。紙面の作成に際し、多くの皆様にご協力をいただきました。ありがとうございます。このような機会でもない限り、普段会うことのできない方々から話を聴くことができ、充実した日々でした。さあ次は1月号新春座談会だ。(W)

今年の夏まつりの取材も全員で協力して乗り切ることができました。たくさん笑顔を見ることができてとても良い夏まつりでした。運営に携わっていた方、お疲れ様でした。ほっとひと息ですね。そんな中、広報津山10月号で秋祭りの記事が；秋祭りに向けて体力をつけよう。まずは、食欲の秋。(雨)

特集に掲載する写真の撮影場所を探し回り、やっと良い場所を見つけた。いざ写真を撮ろうとすると厚い雲が空を覆いだし、しばらく待っていると、雲の間から太陽の光が！今だ、カシヤ、カシヤ。画像を確認すると森に降り注ぐ太陽の光が写っていて、うれしさが込み上がってきました。(雲)

